



アカデミーかわら版

歌川広重 花鳥大短冊撰 「菖蒲に白鷺」より

2019年度前期スタート

2019年度前期がスタートして早1ヵ月が過ぎました。初めての皆さまは、アカデミーにどのような印象をお持ちになったでしょうか。一日も早く学園の雰囲気にならなれ、気の合う仲間との出会いがありますように願っています。

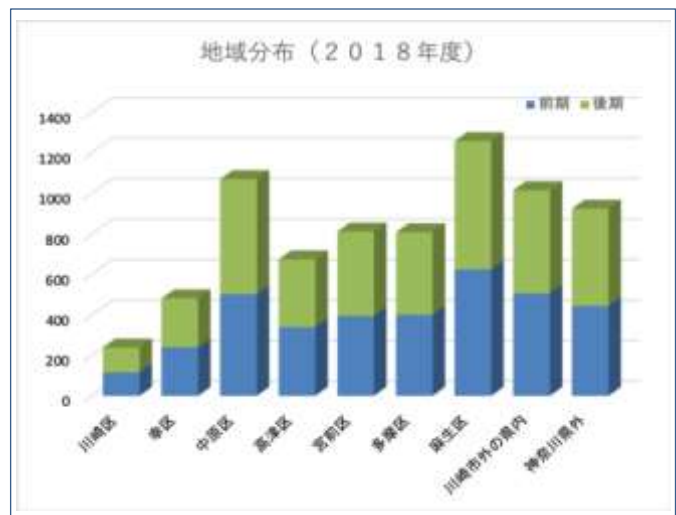
今期は4月23日現在、延べ3,684名の方々に受講をいただいています。2018年度後期に引き続き、3,650名越えとなりました。初めて受講された方は428名に上ります。2017年度前期以来久しぶりの400名越えとなりました。抽選制度の見直しの効果と考えます。

右のグラフは、2018年度（年間7,279名）の受講生の居住地域分布です。

麻生区の方々に最も多く受講をいただいています。新百合での美術・音楽を中心とする文化的な大教室の講座を、ほぼ半数の方が受講されているのが特徴です。

ここ数年、大きく伸びているのが中原区、横浜市を中心とする神奈川県内、東京都です。アカデミーは、幅広い地域から受講生をお迎えしています。

川崎市では人口の多い川崎区からの受講生が少なく、多くの方に受講いただけるよう今後も尽力してまいります。



事務局長の交代

新事務局長のご紹介



葉倉 朋子 事務局長

この4月、長田事務局長の後任として、事務局長となりました葉倉朋子でございます。3月までは、市内の小中学校で校長として学校経営に携わっていました。年間延べ7000人が学ぶ、日本一の市民大学である新しい職場で、自分自身の世界を広げているところです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

前事務局長 退任のご挨拶



長田 俊一 前事務局長

4年間、事務局長を務めさせていただきました長田です。在任中多くの皆様のお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

普通の市民が自主的に集い、学び活躍するアカデミーは素晴らしい！
皆さんに習ってこれからは私も受講します。



2019年度4月度 理事会 報告—4月23日（火）開催

職員の制度変更・それに伴う勤務体制の変更について審議し、下記のように決定しました。

(1) 事務局の職員(清水弘恵、大宮司祐美、西山拓、堀江清美、吉田有香)を4月1日付けで、正規職員として推薦・承認した。
理事会後、藤嶋昭理事長から、一人一人に辞令が手渡された。

(2) 職員の勤務体制について
○勤務時間の変更
8:45~16:45⇒8:30~17:00
○昼休み時間のシフト制(2交代)導入
前半 11:00~11:45
後半 13:00~13:45



2019年度 通常総会 開催

5月21日(火) 16:00~17:30

生涯学習プラザ301

◎ 2018年度活動報告と2019年度活動方針が報告されます。

◎ 審議事項として6つの議案が提出されます。

「市民による市民のための市民大学」として、年一度開催される通常総会は、アカデミーの最高意思決定機関と位置付けられております。文字通り、市民（受講生）の皆さまの手による市民（受講生）の皆さまのためのアカデミーです。NPO 会員に登録していただき、総会への出席を通じ、運営へのご参加をお願い申し上げます。

なお、4ページにNPO 会員のことを掲載しております。ご一読頂ければ幸いです。

フェスタ'19

今年は
11月9日(土)・11月10日(日)に
開催します

フェスタ(学園祭)は受講生の皆さんの学習成果の発表であり、地域団体や住民の方たちとの交流の場として毎年秋に開催されます。今年も、皆さんと一緒に楽しいフェスタを企画し、体感しましょう。

●参加企画を募集します！

講座・WSの学習成果の発表。
形式は展示・演奏会・グループ討議
・公開実験など自由です。
⇒詳細は事務局まで

●フェスタの応援をお願いします

前日から当日にかけて、会場設営、受付、
古本市、バザー、野菜直売など、お手伝い
いただける方を募集します。
⇒詳細は事務局まで



話題の講座・WSのご紹介

講座4 エクセレントⅢ『ユダヤ人、ユダヤ教、イスラエル』（第1部）

代表世話人 山田 勝敏

「流浪の民」ユダヤ人を学ぶ当期講座は、157名の受講者数となりました。

多数の応募をいただき、「エクセレントⅢ」講座には、分野横断的講座の要望を満たす大切な役割があることを再認識させられました。

また、定員をはるかに上回る応募であったため、NPO関係者には近隣での大教室確保について対応していただきましたが、制約があり59名もの抽選洩れが発生いたしました。改めて深くお詫び申し上げます。

各回の先生のご講演は、大変好評を博しており、教室内は毎回熱気に包まれています。常識と考えていた西欧キリスト教史観の眼鏡を外すと「新知識」や「目から鱗」の連続です。

尚、後期講座（第2部）も市川裕先生のご指導でユダヤ人の活力の本質に更に迫るテーマを準備中です。引き続き宜しくご支援をお願い申し上げます。



講座風景
東京大学名誉教授 市川 裕

講座31 歴史（川崎学）2019年度 「いま問い直す、地域再発見Ⅲ」

代表世話人 山崎 昭

歴史（川崎学）の受講生の皆さんは、きっとく川崎>をとっても好きで愛しており、もっともっと素晴らしい所（明るく・楽しい・元気な場所）にしたいと思っている方々に違いないと思っています。

川崎の歴史を古代～近・現代まで時代ごとに、地域に生きた人々の足跡を取り上げ、彼らがどのように生きてきたか、どんな場面で喜び・悲しみを感じたか、問題にどう対処してきたか等、コーディネーターの先生方を中心に、地域の研究に永く関わってこられたく在野の研究者>の先生方をお迎えし学んでいます。

2019年度前期はく多摩川と川崎の人々>をテーマに学習に取り組んでいます。12回/期の講座中2～3回の野外学習を設け、深大寺城跡等を計画しています。2018年度後期は王禅寺と有吉堤（アミガサ事件関係地）等を訪ねました。

また、特別課外講座を1回/半期に開催し、2019年3月には北関東の中世の城跡や渡良瀬遊水地（田中正造の関連地）を訪問しました。



王禅寺；禅寺丸柿の前で

講座301 大学連携講座（昭和音楽大学）

「識れば識るほど、オペラは面白い！！」

講座担当監事 佐野 利勝

2017年後期から、新百合ヶ丘駅前、昭和音楽大学との初の大学連携オペラ講座が始まり、4期目を迎えています。昭和音大は、藤原歌劇団の創設者らが設立した声楽専門学校からスタートしており、オペラ部門は、オペラ史・理論・舞台・演出・歌手まで教授陣も高いレベルを誇ります。日本ヴェルディ協会の理事長でもある小畑恒夫先生のコーディネートで、「バルカントとヴェリズモ」「19世紀のオペラの現場」「ロッシーニ没後150年」、今期は「ロマン主義オペラの黎明～ドニゼッティとベッリーニ」がテーマ。

毎期6回のうち2回を小畑先生が人と作品、2回を演出家や台本研究者、最後の2回を歌手の先生（最終回は演奏会）が担当して、毎回目からうろこ！のお話で、オペラの理解が深まります。今後は、同時代のイタリアとドイツの作曲家の比較なども聞けそうで、興味は尽きません。



昭和音楽大学教授
小畑恒夫

🔔 「お答えします」－アカデミーとNPOに関する Q&A NPO 会員とは？

皆様から頂戴するご質問に、次のようなものがあります。

Q「『NPO会員募集』というお知らせをよく見かけますが、NPO会員とはどういうものなのでしょうか？ アカデミー会員と、どのように違うのでしょうか？」

この質問には、次のようにお答えしました。

A「NPOとはアカデミーを運営する組織のことで、正式には『特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー』と言います。会員はその構成員のことで、正式メンバーとして活動の中心になる正会員（個人及び団体）と、活動を支援する賛助会員（個人及び団体）があります。アカデミーを運営するNPOには、多くの受講生に対して学習の機会を提供し続けなければならないという責務があります。そのためにNPOは、常にアカデミーの維持・発展を目指して活動しています。NPOの活動は、大きく分けて5つあります。一つ目は、先生方や世話人の方々とともに魅力あるカリキュラムを作成し、それを受講生に提供する活動。二つ目は、受講生でもある世話人が講座運営の実務を担い、NPOの担当役員が運営責任者としてそれを支える仕組みによって、受講生の学習機会を保障する活動。三つ目は、受講生から集めた受講料によって必要経費を賄えるように、予算を組みそれを適切に執行できるようにする活動。四つ目は、市民に対してアカデミーの存在と、そこで展開される講座内容を広く宣伝し、受講を呼びかける活動。五つ目は、行政・大学・企業・地域活動団体・各種団体などと連携し、事業範囲の拡大・拡充を目指す活動です。これはいずれも、市民の手によるアカデミーの自主運営を実現し、アカデミーを維持・発展させる上で欠かせないものです。

これらの活動を行うには、それを担う人と活動資金が必要ですが、NPO会員と会費・寄附金がそれに当たります。アカデミーを安定的に運営し、発展させるためには、運営組織であるNPOの強化が必要なので、私たちは常にNPO会員の募集を続けているのです。

NPOが発足したのは2006年末、アカデミーの運営開始は2007年4月でした。2006年12月のNPOの設立総会に集まった会員は58名。総会では、定款（組織・業務の根本規則）、事業計画、役員人事を決めました。県に提出したNPOの設立申請書には、正会員208名、賛助会員101名と記載されています。そして、設立からアカデミーの運営を開始するまでの4か月足らずの間に、NPOでは意思決定機関である総会、執行機関である理事会、運営実務を担当する事務局を立ち上げ、講座運営のために世話人制度をつくりました。また、カリキュラム企画・編成委員会にも参加し、受講生の声をカリキュラムに反映できるようにしました。このような短期間のうちに、多数の会員を集め、運営組織を整備出来たのは、川崎市が運営から手を引こうとしたアカデミーを、何とかして存続させたいと願う多くの受講生の熱意によるものでした。それから12年が経ち、現在の会員は、正会員194名・1団体、賛助会員40名・2団体で、設立時に比べかなり減少している現実があります。会員として活動して来た方々の高齢化に伴い、アカデミーの受講をやめNPO会員からもリタイアする方が目立つようになりましたが、それを補う新会員の入会が少ないことが減少の理由です。運営組織であるNPOが弱体化すると、アカデミーも弱体化します。

延べ7,000名を超える受講生の期待に応えるアカデミーであるためには、NPO会員を増やしNPOを強化することが急務なのです。

編集後記

皆様には、10連休も終わり、元号も「令和」と変わり、仲間と素晴らしい講師の先生方に囲まれ、心改まる思いで受講の日々を送られていることと思います。

一方で、コーディネーターの先生方、世話人の皆さん、担当理事は、早くも後期の講座内容について詰め段階に入っています。新たな知的冒険の航海への水先案内を期待しましょう。

編集委員 M. N.

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会
編集人 かわら版編集委員会

川崎市中区今井南町 28-41
川崎市生涯学習プラザ 3F

電話：044-733-5590

FAX：044-722-5761

メールアドレス：info@npoacademy.jp

ホームページ：http://npoacademy.jp/